

第五十回帝國議會
衆議院

治安維持法案(政府提出)委員會會議錄(速記)第二回

會議

大正十四年二月二十四日(火曜日)午前
十時三十分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 前田 米藏君

理事 中谷 貞頼君

理事 吉田 眞策君

理事 本田 義成君

理事 板野 友造君

隆廣元太郎君

清水留三郎君

山田 又司君

比佐 昌平君

中村啓次郎君

土屋 興君

内田 信也君

熊谷 巖君

山崎達之輔君

出席國務大臣左ノ如シ

外務大臣男爵 幣原喜重郎君

司法大臣 小川 平吉君

出席政府委員左ノ如シ

朝鮮總督府政務總監 下岡 忠治君

內務省警保局長 川崎 卓吉君

司法省刑事局長 山岡萬之助君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

治安維持法案(政府提出)

○前田委員長 治安維持法案ノ委員會ヲ

前同ニ引續イテ開會致シマス、本田義

成君ガ質問ヲ留保スルト云フコトデア
リマシタガ、今日出席シテ居ラレマセ
ヌカラ、次ノ通告者ノ杉浦君ニ發言ヲ
許シマス

○杉浦委員 小川國務大臣ニ御尋致シ

マス、本法案ノ提案ノ理由ノ説明トシテ

內務大臣ノ御意見ヲ伺ヒ、又昨日本席ニ

テ小川國務大臣ノ御答辯ヲ伺ヒマシタ

所ガ、其初頭ニ於キマシテハ、私有財産

制度竝ニ我國ノ政體ハ絕對的ノモノデ

アルト云フ風ニ御認ニナツテ居ルヤウニ

聽イタノデアリマス、所ガ昨日ノ最後ノ

谷原君ノ質問ノトキト思ヒマスガ、必

シモ私有財産ニ付テハサウ云フ風ニ

認メテ居ナイ、斯ウ云フ御趣旨ノ御辯

明ガアツタヤウニ思ヒマス、ソコデ簡單

ニ其當時ノ事ヲ思出シテ見マスレバ、

小川國務大臣ノ御話ニ依リマスルト、

私有財産ノナイヤウナ社會ガ現レテ來

ルコトハ、必シモ此法デ罰スル譯デナ

ク、但シ其私有財産ノ無イヤウナ經濟

組織ガ現ハレテ來ル其時ニ、現在ノ所

有權ヲ無償デ取上ゲテシマウト云フコ

トガイケナイノダ、ト云フヤウナ御答

辯ガアツタノデアリマス、此事ハ言葉ヲ

換ヘテ申シマスレバ、私有財産制度其モ

ノヲ否認スルニ非ズシテ、私有財産ノ

無イヤウナ、私有財産制度ノ無イヤウ

ナ世ノ中ガ出テ來テモ構ハナイ、今ノ私有

サレテ居ル財産ヲ有償的ニ取上ゲテ貰ハナ
ケレバ困ル、斯ウ云フ御趣旨デアッタノデア
リマスガ、斯様ニ解釋ヲ致シマスレバ、

私有財産制度其モノヲ否認スルノデナ

イト云フ立法律理由ニナルト思ヒマス、果

シテ然ラバ、此現在提案サレテ居ルトス

ルノ法文ハ、少クモ其意味ニ訂正セラ

ルベキモノデアルト云フコトヲ確信致

シマス、サウ云フ修正意見ヲ持ッテ居リ

マス、吾トシテハソレダケノ點ニ於

テモ政府ノ意思ガ判明シタコトヲ喜バ

シク思ッテ居リマス、更ニ私ハ昨日述ベ

ラレマセヌ所ノ政體ノ問題ニ付テモ、

願クハ絕對ナルモノト御認メニナラズ

シテ、矢張私有財産ト同ジヤウニ、相對

的ノモノト御認メガ願ヒタイト思ヒマ

ス、或ル一二ノ質問ヲ試ミヤウト思

フ申シマスレバ、私有財産制度デア

ルトカ、或ハ政體變更トカ云フヤウナ

モノハ、觀念上絕對ノモノデハナイノ

デハナイカト云フコトヲ御伺ヒ致シタ

イト思フノデアリマス、史實上ノ問題

ト致シテハ、我國ニ於テハ二千五百年

以來、幾多ノ政體ヲ變更シタ史實ガア

ルノデアリマス、深ク申シマセヌデモ、

ソレダケハ史實ヲ説明シナイデモ、我

國ノ現在ノ制度ガ將來變ハルト云フコ

トガ有リ得ルト、觀念上考ヘ得ベキコ

トデハナイカト云フコトヲ、第一段ニ
御伺ヒ致シタイノデアリマス、第二番
目ニハ法律的ニモ現在ノ政體ヲ變ヘラ

レルト云フコトガ言ヘシカモ知レヌト云

フコトガ、豫想セラレテ居ルノデハナイカ

ト云フ事ニ付テ、御伺ヲ致シタイト思フノ

デアリマス、憲法ノ七十二條ニハ憲法ヲ

改正スル途ガ規定セラレテ居リマス、

デアリマスルガ故ニ憲法其モノガ我國

ノ憲法ハ改正セラル、途ガ規定セラレ

テ、或ル部分ハソレト改正セラレル

コトガアルコトヲ豫想致シテ居ルノデ

アリマスカラ、法律的ニ政體デアルト

カ或ハ私有財産制ト云フヤウナモノ

ヲ、合理的ニ改正サレルヤウニハ考ヘラ

レナイト云フヤウナ國務大臣ノ御説明

ハ、ドウ云フモノデアルカ、私ニハ其意

味ガ分ラヌノデアリマス、若シ飽迄モ

左様ナ説ヲ御維持ニナルナラバ、憲法

七十三條ノ中ニ如何ナル内容ヲ持ッテ

居ルカ、御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス、

更ニ是ハ昨日谷原君ノ質問ニ依リマシ

テ、私有財産制度ハ相對的ノモノデア

ルト認メラレタヤウデアリマスカラ、

或ハ其質問ハ必要デナイト云フヤウニ

ナルカモ知レマセヌ、私有財産制度ニ

付キマシテモ、矢張憲法七十三條竝ニ

二十七條ノ第二項ヲ見マスレバ、矢張

ト考ヘルノデアリマス、尙ホ憲法七十
三條ノ規定ハ固ヨリ天皇ノ御發議ニ依
ルコトニナツテ居リマス故ニ、此點ニ付
キマシテ吾々ハ説明ヲ致シニクイ、故
ニ吾々ハ答辯モ出來ナイ質問ヲ受ケル
コトガアリマス、ケレドモ憲法並ニ議
院法ニ依ツテ見マスレバ、議院ニハ上奏
ノ權利ガ與ヘラレテ居リマス、更ニ今
度ノ議會ニ於キマシテハ普通選舉ト云
フヤウナモノガ提案セラレタコトデア
リマシテ、國民ハ原則トシテ全部政治
ニ關與スル權利ヲ與ヘラレルコト
ニナリマスレバ、國民ノ政治上ノ
欲スル所ノコトヲ、遺憾ナク此上奏ノ
形ニ依ツテ發表スルコトガ出來ルコト
ニナツテ居マスカラシテ、今申シマシタ
憲法ガ將來改正セラレ得ルト云フ規定
ヲ持ツテ居ルカラシテ、兩議院ハ上奏ノ
權利ガアリ、及人民ハ其兩議院ノ上奏
權ニ參與スル法律ヲ持ツテ居ルノデア
リマスカラ、當然人民ノ意思ガ憲法改
正ニ參與シ得ル途ガアルコト、私ハ考
ヘル、更ニ此點ニ關スル條文ノ御解釋
ヲ煩ハシタイト思ヒマス、第三ニハ政
治ノ意味カラ申シマスレバ、國務大
臣ハ思想ノ自由ト云フコトヲ御述ニナ
ルノデアリマス、而シテ昨日ノ小川國
務大臣ノ御話ニ依リマスレバ、研究ノ
結果私有財産制度ヲ否認スルガ如キ發
表ヲ爲スト云フコトモ亦自由デアルト
云フコトヲ御述ニナツテ居リマス、其處
マデノ自由ヲ御認ヲ願ヒマスレバ、國

民ハ喜ンデ國家ノ爲ニ最善ノ經濟組
織、最善ノ政體ヲ造リ上ゲルベク研究
ヲ致スデアリマセウ、假ニ現在ノ政體
ヲ、又現在ノ私有財産制度ヲ、否認スル
ヤウナ結論ガ出來テ參リマシタ場合
ニ、之ヲ議會ニ反射セシメテ、サウシテ
其意思ヲ發表シテ行クト云フヤウナ方
法ガ全然ナイト云フコトニナリマスレ
バ、勢ヒ思想カラ直接行動ヘト云フコ
トニ移ラザルヲ得ナイノデアリマス、
昨日此點ニ對シテ小川司法大臣ハ、或
ル程度マデソレハサウダ、其場合ニハ
革命ト云フコトニナルノダト云フヤウ
ナ御答辯ガアリマシタケレドモガ、政
治的ニ見マスレバ、左様ナ事ハ極メテ
利口デナイ方法デハナイカト思フノデ
アリマス、以上ノ點ニ付テ私ハ御答辯
ヲ御願ヲ致シタイト思ヒマス

○小川國務大臣 第一ノ御質問ハ政體
ト云フモノハ國體ニ較ベルト絕對ノモ
トデハナイデハナイカ、斯ウ云フコト
デゴザイマス、之ヲ變更スルト云フコ
トハ差支ナイデハナイカ、或ル程度マ
デ觀念上——是ハ御質問ノ通り國體ニ
較ベマスルト絕對ノモノデハナカラウ
ト思ヒマス、御説ノ通り政體ニハ相當
ノ變化モアルト云フコトモ、或ル程度
マデ豫想ガ出來ルト思ヒマス、併ナガ
ラ此本案ニ付テハ絕對デアルトナイト
ニ拘ラズ、政體ノ根本ヲ變ヘルト云フ
コトハ非常ナル危險ナルコトデアアルカ
ラ、之ヲ罰シヤウト云フコトデアリマ

ス、然ラバ更ニ斯ウ云フ問題ガ起ルデ
アラウ、御質問ノ趣意モ其處デアラウ
ト思フ、例ヘバ今日ノ立憲政體ガ變更
ニナツテモ、天皇ト云フモノガ殘ッテ居
ル以上ハ國體ガ維持シテ行ケルデハナ
イカ、サウ云フコトモ或ハ豫想出來ヌ
コトデハナイ、憲法ヲ變ヘテ行ケバ豫
想ガ出來ナイコトモアルマイ、斯ウ云
フコトニ歸著スルデアラウト思ヒマ
ス、單刀直入ニ申ストサウ云フ御趣意
デアラウト思フ、ソレガ今日困ルト云
フコトハ斯ウ云フ事ガアル、大體ニ於
テ今日吾々ハ明治天皇ノ大御心ニ從
テ立憲君主政體ト云フモノヲ確立シ
テ、サウシテ我國ノ政體ノ根本ト云フ
モノハ民選議員ヲ以テ立法ニ參與セシ
メテ政治ヲヤル、之ガ即チ立憲君主政
體ノ根本デアル、並ニ之ニ關聯シテ或ハ貴
族院ガ出來ルトカ、或ハ樞密院ガ出來ルト
カ云フコトガアリマスケレドモ、是ハ立憲政
體ノ根本トハ申セナイ、根本ハ即チ國民
ノ代表ト共ニ政治ヲ爲サレル、斯ウ云フ大
御心カラ憲法ガ出來タノデアアル、即チ
日本ノ立憲君主政體ト云フモノノ根本
ハ此處ニ在ルト思フ、之ヲ壞スト云フ
コトハ洵ニ危險デアアル、之ガ本法ノ立
案ノ趣意デアリマス、或ハ考ヘヤウニ依
リマスレバ、議會モ無クナツテモ宜イデ
ヤアナイカ、今日以後社會ノ變遷ニ連
レ、又人ノ思想モ段々變化シテ行クニ
付テハ、サウ云フ事モ有リ得ルコトデ
アル、アツテモ日本トシテハ差支ナイチ

ヤアナイカト云フ御議論モアル、所ガ
實際ニ於テ茲ニ困ル事柄ト云フモノ
ハ、日本ニ於テ甚ダ畏イコトデアリマ
スガ、國體ノコトマデ言及スルト云フ
ト中ニ其説ハ行ハレナイ、ソコデ其國
體ノコトマデ言及セズシテ、單ニ此議
會政治ヲ否認シテ打壞サウ、國民ノ代
表ヲ以テ政治ヲスルト云フコトダケ打
壞ハサウト云フコトダケヲ主張シテ、
之ヲ實行シヤウトシテ、進ンデ其國體
即チ畏クモ天皇ノ所マデハ言及セズ
ニ、態ニ隱シテ議會ヲ壞スコトダケヲ
ヤルト云フ運動ガ始ツテ來テ居ル、之
ガ甚ダ恐ルベキモノデアルカラ、之ヲ
罰シナケレバナラヌト云フコトニナツ
タノデアリマス、杉浦君ノ御質問アツタ
如ク將來社會ノ事情ガ變遷シ、國民全
體ノ考モ段々ト變ツテ來テ、又或ル場合
ニハ議院政治ノ弊害ガ澤山出テ來テ、
國民ハ代表ノ政治ト云フモノハドウモ
弊害ガ多イ、是ハ日本トシテ改メナケ
レバナナルマイト云フコトデ、サウシテ
漸次時勢ニ應ジテ合法ナル手段デ變更
スルト云フ場合ハ或ハアリ得ルノデゴ
ザイマセウ、サウ云フコトガアリ得ル
ト云フガ爲ニ、今日之ヲ捨置クコトノ
出來ナイノハ、先刻私ガ申シタ天皇國
體ト云フコトニマデ行カズニ、其點ハ
隱シテ置イテ議會政治民選ノ制度ヲ壞
サウト云フコトガ中ニ少カラズ始ツテ
居ル、ソレデ之ヲヤッタノデアリマシテ、
絕對デナイト云フ點ハ全ク杉浦君ト御

同感デアリマス、其必要ガアリマセヌケレバ或ハ斯ウ云フコトヲ罰スル必要ガナイカモ知レナイ、併シナガラソレハ杉浦君ノ御考デモ餘程遠イ時代デ、人ノ思想ノ變タ時代デナケレバ、合理的、合法的ニ行ハレナイデアラウト思フガ、絶對的デナイコトハ御言葉ノ通りデアリマス、私有財産制度ノコトニ付テ重ネテ御尋デゴザイマスガ、是ハ昨日私カラモ政府委員カラモ御答申シタ通り、私有財産ノ制度ト云フモノヲ否認スルト云フコトニ付テハ段々研究シタ結果、此字ガ一番當嵌ルト云フコトニナッタデアリマス、故ニ私有財産制度ヲ變更スルトカ、或ハ所有權ニ制限ヲ加ヘルト云フコトハ少シモ差支ナイノデアリマス、昨日谷原君ノ質問ガ初メノ間矢張所有權ト云フモノヲ認メルノデアルカ認メナイノデアルカ、御質問ノ趣意ガ分ラナカッタモノデスカラ、或ハ生産機關ヲ公營ニスル場合ニハドウカト云フ御問デアッタケレドモ、生産機關ノ公營デモ、私有財産制度ヲ根本カラ否認スル考ヲ以テ所有權ト云フモノヲ沒收シテシマフト云フ考デアレバ、是ハ私有財産制度ノ否認デアリマスカラ、之ニ觸レル、併ナガラ所有權即チ私有財産制度ヲ認メテ之ニ相當ノ賠償ヲヤツテ、サウシテ之ヲ公有ニスルトカ、國營ニスルトカ、或ハ其他ノ機關ニ移スト云フコトハ些トモ差支ナイ、是ハ根本ニ於テ私有財産制度ヲ否認ス

ルモノデナイカラ差支ナイノデアアル、或ハ又國家社會主義ノ如キモノモアルデアリマセウガ、是モ亦所有權ヲ認メルノデアリマスカラ差支ナイ、唯、此法律デ罰シヤウト云フノハ、根本カラ私有財産制度ヲ否認スルモノデアリマス、共產主義ヲ實行シヤウトスレバ、當然ノ結果トシテ第一憲法ニ反スルコトハ勿論デアアルシ、所有權ト云フモノヲ認メナイノデアリマスカラ——日本ノミナラズ世界各國デモサウデアリマスガ、總テノ法律命令ノ大部分ハ人ノ生命財產ヲ保護スル爲ニ出來テ居ル、此財產ヲ根本カラ認メナイ、サウシテ無產階級ノ獨裁政治ヲ行フト云フノガ共產主義デアアル、故ニ共產主義ヲ實行スルト云フコトハ當然ノ結果トシテ總テノ法律ヲ根本的ニ打毀シテシマツテ、總テノ社會組織、財產ノ制度ヲ根本カラ破壊スルト云フコトニ必然的ニナラナケレバナラス、公共ノ利益若クハ人類一般ノ利益ノ爲ニ、私有財産制度ノ組織ヲ變ヘテ外ヘ持ッテ行クト云フコトハ、是ハ無論差支ナイコトデアリマス、昨日政府委員カラ申上ゲタ通り、共產主義トカ何トカ云フ字ヲ使ヒマス、却ッテ色々ノ疑惑ヲ招ク、財產ノ國家社會主義ノヤウニ大勢ニ分ケタラドウカト云フ論モ出マセウ、ソレモ場合ニ依テハ宜シウゴザイマセウ、相當ノ賠償ヲシテ財產制度ノ根本ヲ認メタルト云フナラバ一向差支ナイガ、是ハサウデハナイ、

根本カラ所有權觀念ヲ無クシテ、必然ノ結果トシテ總テノ法律ヲ根本カラ壊シテシマハナケレバナラス、大部分ノ法律ハ人ノ生命財產ヲ保護スルト云フコトガ一番主デアリマス、社會組織モ其通リ、即チ財產ノ所有權ガ本デアツテ、初メテ人類ノ向上モ出來、發展モ出來、競争モ出來、子孫將來ノコトヲ考ヘテ人間ハ進ムモノデアリマスカラ、之ヲ破壊シテ私有財産制度ヲ打毀スト云フコトニナルト、人類ト云フモノハ非常ニ悲慘ナモノニナル、又之ヲ實行スル爲ニハ非常ナル大事件ヲ起シテ、随分多數ノ人ヲ殺サナケレバナラス、日本ノ如キ共產主義ヲ實行スレバ、必然ノ結果トシテ此日本ノ皇室トハ相容レナイコトニナル、無產階級ガ獨裁デヤラウト云フノデアリマスカラ、國家、法律等ノ總テヲ破ルコトニナルノデアリマスカラ、財產ノ制度、方法ヲ變更スルトカ、所有權ニ制限ヲ加ヘルトカ、少數ノ所有ヲ多數ニ移スト云フコトデモ、常ニ所有權ヲ認メルト云フ觀念ガアツテ、相當ナル賠償ヲ與ヘタルト云フノデアアルカラ差支ナイ、本案ハサウデハナイ、私有財産制度ヲ認メナイ、即チ共產主義、アレヲ罰シヤウト云フノデアリマスカラ、是ハ餘リ私ハ混雜スルコトハナイト考ヘテ居ル、丁度只今ノ申上ゲマシタヤウナ次第デ、憲法第二十七條ハ是デアアル、日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、コトナシ「斯ウ云フ風ニ憲法ニ於テ認メラレ

テ居ル、斯ノ如ク總テノ所有權ヲ認メテ居ルノデアリマス、今私ガ申上ゲマシタ通り、法律ニ依ッテ合法的ニ之ヲ制限スルコトハ差支ナイ、此事ハ無論憲法ニハ觸レマセヌ、今日ノ治安維持法ニモ觸レマセヌ、立派ニ出來ルモノデアリマス、何故ナラバ本法ハ私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的トシテアリマス、合法的ニ制限ヲ加ヘ其方法ヲ變ヘルト云フ部類ハ差支ナイノデアリマス、斯ノ如ク憲法ニ依ッテ——憲法ノ明文ヲ以テ制限シ得ルコトガ出來ルト云フ位、此所有權ハ尊重サレテ居ル、本案ニ規定シテアルノハ、是ハ有ユル國家ノ根本ヲ壞ス者ト云フコトニナル、ソレデ最後ノ此憲法ノ改正ニ付テハ、政體ヲ變更ニ付テモ、私有財産制度ノ變更ニ付テモ、只今申上ゲタコトデ大體答辯出來タト思ヒマスガ、終リニ御尋ニナツタ所ハ、本法ニ規定シテ居ル如ク、所有權ノ私有財産制度ヲ根本ヨリ否認スル、破壊スルト云フコトヲ議會ヲ經テヤル場合ニハドウスルカト云フ御尋デアリマシタガ、是ハ想像ノ付カヌコトト思フ、即チ憲法ニモ法律ニ依ッテ制限スルコトガ出來ルトナツテ居ルケレドモ、所有權ハ憲法デ認メテ居ル、非常ニ澤山雨ノ降ル如ク色々ナ法律ガアリマスケレドモ、何レモ生命、財產、自由等ヲ認メテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ絕對ニ根本カラ破壊スルコトハ、如何ニ此議會ヲ經テ爲サントシテモ出來得ザ

ルコト、思フ、ドウシテモ是ハ内亂カ
何カニ依ッテセナケレバ、殆ド想像ノ出
來ヌコト、考ヘルノデアリマス

○杉浦委員 私有財産制度ヲ否認スル
ト云フ意味ハ、普通吾々ガ使ッテ居ルソ
レト、國務大臣ガ御用キニナル其間ニ、
多少差異ノアルコト、思ヒマスガ、私
共ハサウ云フ方面ノ學說ナリ、思想ナ
リニ依リマスレバ、消費財産ノ如キモ
ノ、存在シテ居ルト云フコトハ、尙ホ
私有財産制度ヲ否認シタモノデアアル、
消費財産ノ存在ガ認めラレテ居レバト
テ、ソレヲ以テ私有財産制度ト云フモ
ノハ完全ナリトハ言ヒ得ナイ、之ガ私
ハ大切デアルト思ッテ居ル、是ハ私自身
ノ説ト言ヘバ力ノ弱イモノニナリマス
ガ、是ハ相當ナル一ツノ學說デアリマ
ス、其學說ニ依リマスレバ、私有財産制
度ヲ否認スルト申シマシテモ、消費財
産ノ端々マデモ否認スルト云フコトヲ
申シテ居ルノデハナイノデアリマス、
大體カラ申シマスレバ、生産資本ノ共
有トカ國有トカ云フコトヲ主張シテ居
ルノデアリマス、斯ノ如キ狀態ヲ實現
スレバ、ソレガ私有財産制度ガナクナ
タモノデアルト申スノデアリマスガ、
其意味ニ於テ私有財産制度否認ト云フ
コトヲ御認め願ヒタイ、此意味カラ申
シマスレバ、小川國務大臣ノ仰シヤル
ヤウニ、消費財産ノ一部分ト云フモノ
ヲ認めル、併ナガラ大體ノ生産資本ト
云フモノ、國有或ハ共有ト云フモノヲ

主張スル場合ニ、唯、ソレヲ有價的ニ國
有或ハ共有ニシテシマヘバ、私有財産
制度否認ト云フコトニナラナイノデア
ルト思ヒマスガ、其點ハ如何デスカ

○小川國務大臣 同ジヤウナコトヲ昨
日以來度々御答辯申シタヤウニ考ヘテ
居リマスガ、今御説ノ如ク、露西亞デヤ
シテ居ルガ如ク、國家、社會、全體ノ制
度ヲ根本カラ否認シテ居ル、彼ア云フ
ノガイカス、併ナガラ財産ノ一部分、生
産機關デアリマス、資本デアリマ
ストカ云フモノハ私有財産ノ一部デア
リマス、其私有財産制度、所有權ノ根本
ノ觀念ヲ認めテ、サウシテ相當ノ賠償
ヲ拂ッテ變更スル、總テノモノヲ變更ス
ル、是ハ差支ナイ、根本的ニ一般的ノ私
有財産制度ヲ否認スル、所有權ノ觀念
ヲ打壞ハスト云フコトデハナイ、同ジ
事ヲ同ジ人間ガ繰返シテモ分リマセヌ
デセウカラ、誰カ別ノ方面カラ申上ゲ
ルコトニ致シマセウ

○杉浦委員 モウソレデ分リマシタ、
次ニモウ一點御伺ヒシタイト思ヒマス
ガ、憲法ヲ改正サレルト云フコトハ憲
法自體ガ認めテ居ル、憲法ニ規定シテ
アルノハ、廣汎のニ改正シマスルト其中
ニ政體ノ變更ト云フモノハ這入ラナイ
カドウカ、小川國務大臣ノ御説ノ通り、
立憲政體ノ變更ガ這入ラナイカドウカ、
其點ヲ伺ヒタイ

○小川國務大臣 憲法ハ無論此條章ヲ
改正スル場合ヲ、憲法ノ明文自體ニ依ッ

テ杉浦君ノ御説ノ如ク認めラレテ居
ル、ソレハ一向差支ナイト考ヘルノデ
アリマス、併ナガラ憲法ガ全部ガ改正
サレルト云フコトハ到底想像サレナ
イ、即チ憲法第一條ニハ「大日本帝國ハ
萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス」ト云フガ
如ク、是ハ即チ絕對デアリマスカラ、改
正ノ豫想ハ付カヌノデアリマス、第二
ハ本法ニ出テ居ル如ク政體ノ變更ト
カ、組織ノ變更ニ至ッテハ別デアリマ
スガ、細カイ改正ハ出來マセウガ、今日我
國ニ於キマシテハ 明治天皇ノ大御心

ニ基カセラレテ、國民ト共ニ政治ヲヤ
ル、即チ大日本帝國ハ 神武天皇以來
ノ或ル意味ニ於ケル國體ト申シテ宜カ
ラウト思ヒマス、此精神ニ基イテ本制
度ヲ定メラレタモノト思ヒマス、今日
ニ於テハ此改正ヲサルベキモノデハナ
イト思ヒマス、其他ノ條項ニ付テハ無
論改正ハ想像サレマス

○杉浦委員 度々國務大臣カラ——小
川國務大臣バカリデハアリマセヌ、若槻
國務大臣モ同様デアリマスガ立憲君主
政體ト云フ文字ヲ御使ヒニナル、私共ノ
時代ニナリマシテハ立憲君主政體ト云
フ文字ハ殆ンドナイ、國體ノ上カラ民
主、君主、政體ノ上カラ立憲政體ニ專制
政體ト云フヤウニ分ケマスガ、其分ケ
方——立憲政體、君主政體ト云フ文字
ヲ使フコトハ私共ノ時代ニハナイ、ソ
コデ私ノ申上ゲマスコトハ國體ヲ彌ガ
ス上ニモ尊ク認めタイト云フコトニ付テ

ハ全ク同感デアアルノデアリマスガ、其
處ニ持ッテ來テ略々同様に型ノ同様に制
度ニ以テ來テ、事ニ依ッタラ立憲政體ト
民主政體トヲチャンボンニ使ッタ文字
ヲ使用サレテ居ルノデナイカ、斯ウ云
フ點ニ付テ政府ニ御伺ヒシタ方宜イ
ト思ヒマス

○山岡政府委員 御説明ノヤウナ君主
政體、立憲政體ノ文字、或ハ共和政體ノ
關係ニ付テハ、色々憲法上ニ於テ論議
サレテ居リマスガ、大體ノ基礎觀念ダ
ケハ學者間ニ於テモ、實際家ニ於テモ、
一致シテ居ル譯デアリマス、國體ニ付
テハ御議論ノナイ所デアリマスガ、政
體ニ付テ色々ト問題ヲ斯ウ考ヘ、疑點
ノ有ル所ハ御尤デアアル、政體ノ事ハ段
段ト御説明ニモアリマシタ通り、如何
ナル國家ト雖モ其成立ノ最初カラ屢々
變更シテ居ルコトハ歴史ノ上ニ明ニ示
サレテ居ル所デアリマス、政體ノ變更
サレテ行クト云フコトハ、段々司法大
臣ヨリ御説ニナッタ通りデアリマス、其
根本ヲ覆サナイ限リハ變更シテ行クト
云フコトガ、時世ノ進運ニ伴ウタル改
正デアリマス、唯、今日我國ノ憲法政治
ニ於テ覆スベカラザルモノガアルヤ否
ヤ、是ハ一ツノ問題トシテ研究サレテ
宜カラウト思フ、憲法ニ於テ公選ニ依
ル所ノ議員ニ依ッテ組織シテ居ル衆議
院及ビ貴族院ニ依ッテ、此二院制度ヲ以
テ兎ニ角立法機關トシテ國ノ支配ヲ爲
ス所ノ法律ヲ制定スル國家機關デアリ

マスカラ、是ナシニ憲法政治ト云フモノハ立タヌダラウト思ヒマス、即チ今日考ヘテ居ル所ノ憲法政治ト云フモノハ立タヌ、サウ云フ意味ニ於テ段々内務、司法、兩大臣ヨリ、代議政體ト云フモノヲ覆スト云フコトハ根本ノ變革デアルカラ、サウ云フコトハ許サヌ、斯ウ云フモノハ絕對ニ許サヌト云フ趣旨デアリマス、ソレヲモ尙ホ許スト云フコトニナリマス、全ク此我國ノ今日ノ政治ノ上ノ關係ヲ覆スコトニナリマスカラ其事ハ許サヌ、唯併ナガラ憲法ニ於テ豫想シテ居ル、段々御説明モアリマス通り勅命ニ依リ議會ニ提出シテ相當鄭重ナ手續ヲ取ツテ、憲法ノ或ル部分ニ對シテ時代ニ適應スル改正ヲスルト云フコトハ、既ニ憲法ニ認メテ居ル所デアリマス、根本ニ牴觸シナイ限り、時勢ノ必要ニ應ジテ改革スルト云フコトハ憲法ニ於テモ當然豫想スル所デアリマス、大體御質問ノ趣旨モサウ云フ所ニアルト考ヘマス、是ダケ御答致シマス

○前田委員長 青木精一君

○青木委員 私ハ露西亞ノ共產黨ト此法律ノ内容トノ關係ニ付キマシテ、主トシテ事實問題及ビ種々ナル事情ヲ政府當局ニ御伺ヒシタイノデアリマス、第一ニ外務大臣ニ御伺ヒシテ見タイノハ、日露國交恢復ト共ニ此法律制定ノ價值ト云フモノ、或ハ目的ト云フモノガ、十分意義附ケラレテ來ルノデアリ

マスガ、日露國交ノ恢復ノ條約ニハ宣傳禁止ノ條約ガアルコトハ當然デゴザイマスルガ、此宣傳禁止ノ條約ガアツテモ、今マデノ露西亞ノ外ノ國ニ對スル所ノ關係カラ見ルト云フト、宣傳禁止ノ條約ガ往々ニシテ行ハレナイ、即チ露西亞ノ勞農政府ノ外ニ第三「インタナショナル」ト云フ萬國共產黨ガアツテ、此勞農政府ト第三「インタナショナル」ノ關係ハ不即不離デ、丁度一ツノ人間ノ頭ニ前ニ顔ヲ附ケタノガ勞農政府デアツテ、後ノ方ニ御面ヲ附ケタノガ第三「インタナショナル」デアアル、今日世界ニ於ケル「スフェイスクス」ノヤウニ見ラレテ居リマス、現ニ有名ナ「デノヴィエフ」書翰事件ト云フヤウナモノガ起ツテ、英露ノ間ニ締結サレタ通商條約ト云フモノハ、宣傳禁止ノ條件トシテ條約ガ成立シタヤウニ承知致シテ居リマスガ、ソレハ矢張其宣傳禁止條約ト云フモノガ十分徹底シテ居リマスガ、尙ホ外務大臣ニ御説明ヲ願ヒタイノハ、若シ日本ニ於テモ宣傳禁止條約ト云フモノガアルニシテモ、此第三「インタナショナル」ハ日本ニ向ツテ作用ヲ及ボシテ來ル時ニ於テハ、必ズヤ勞農政府ニ於テハ、ソレハ政府ノ働キデハナイ、是ハ第三者ガアルコトデアアルカラシテ、政府ニ於テハ何トモスルコトモ出來ナイ、日本ガ抗議シテモ言ヒ遁レヤルダラウト思ヒマス、政府ハ勞農政府ト第三「インタナショナル」ノ關係

ヲ如何ニ御覽ニナツテ居ルカ、サウシテ又宣傳禁止條約ヲ徹底的ニ今日ノ狀態ノ下ニ行ヒ得ル確信ガアルカドウカト云フコトニ付テ、是ハ無論宣傳禁止條約ト云フモノハ秘密ノ事デゴザイマセウカラ、此内容マデハ御伺ヒ出來ナイカモ知レマセヌガ、大體ニ於テ私共ノ疑問トスル點ニ付テ御答辯ヲ戴ケバ幸ヒト存ジマス

○幣原國務大臣 只今御質問ノ第一點

ハ露西亞ノ「ソヴィエツト」政府ト云フモノト第三「インタナショナル」ト云フモノトノ關係ハ如何ト云フ事デアッタヤウデアリマス、是ハ極メテ重大ナル問題デアリマシテ、吾々モ夙ニ研究致シテ居ル問題デアリマスガ、今日具體的ノ問題ガ起ツテ居リマセヌノニ、豫メ第三「インタナショナル」ト勞農政府トノ關係ガ斯クミモノデアルト云フ其關係ヲ茲ニ私ガ明言スルコトハ、今同條約ガ出來テ其國交ヲ恢復シ維持シテ行ク上ニ於テ非常ナ妨害ガ起ルノデ、豫メ此關係ノ事ヲ私ガ此處デ公言スルト云フコトハ差控エタイト存ジマス、併ナガラ元來露西亞トノ國交ガ恢復セラレ、其恢復セラレルニ付テノ條約ノ一箇條ニ宣傳禁止ノ條項ガアルナラバ、之ガ若シ完全ニ行ハレルモノナラバ、治安維持法ト云フヤウナモノハ必要ガナイト云フ風ナ事ガ、或ハ御質問ノ裏面ニ伏在シテ居リハシナイカ知ラント、私ハ只今伺ッタノデアリマス、

若シソレデアレバ、サウ云フ事ハナイト云フコトヲ私ハ御説明申上ゲテ宜イノデアリマスガ、併ナガラ御質問ノ趣意ガサウデナケレバ私ハ御答スル必要ハナイノデアリマス

○青木委員 ソコデス

○幣原國務大臣 ソレナラバ一應御説明ヲ申上ゲヤウト存ジマス、此條約ノ正文ハ何レ數日中ニ公布セラレル運ニナルコト、存ジテ居リマス、今日ハマダ發表ノ域ニ達シテ居リマセヌガ、併ナガラ大體ノ趣旨ニ付テハ茲ニ御説明申上ゲテ宜カラウト考ヘマス、即チ日露兩國ハ互ニ如何ナル政治上又ハ社會上ノ制度ヲ採用シ維持スルコト、ナリマシテモ、是ハ其國家ノ當然ノ權利デアルト云フコトヲ互ニ承認致シマシタ、隨テ兩國ハ何レモ他ノ一方ノ治安秩序ト云フモノヲ破壞スルガ如キ虞ノアノ行爲ハ、公然デアツテモ、隱密デアツテモ國家政府ト云フモノハ自ラ一切之ヲ爲サルノ義務ヲ負フト同時ニ、國家ト特殊ノ關係ノアルモノハ、即チ何等カノ官職ヲ有シテ居ルモノ又ハ國家ノ公金ヲ一部若クハ全部ノ財源ト致シテ成立シ維持サレテ居ル所ノ團體、斯ノ如キ國家ト特殊關係ノアルモノニ對シマシテハ、前ニ述ベマシタ如キ行爲ヲ爲サシメザルノ義務ヲ有スルト云フ事ガ、大體今回纏リマシタ條項ノ要旨デアリマス、條文ヲ其儘申上ゲタノデハアリマセヌガ、趣旨ハサウ云フ事デア

リマス、即チ先ヅ何等カノ官職ヲ帶ビテ居ル者、是等ノ者ハ國家ト特殊ノ關係ヲ有シ、即チ一定ノ規律ニ服シテ居ルモノデアリマスカラ、國家ハ其行爲ヲ指揮監督スルノ權能ヲ持ッテ居リマス、取締ノ途ガアルノデアリマス、又國家ノ公金ヲ全部又ハ一部ノ財源ト致シテ居ルヤウナ團體ニ付キマシテモ、國家ハ必要ノ場合ニハ其財源ヲ斷ツト云フ制裁方法ノ下ニ、斯ノ如キ團體ノ行爲ヲ取締リ得ルノ途ガアルノデアリマス、斯ノ如キ國家ト特殊ノ關係ノアルモノニ對シマシテハ、國家ハ相當ナル取締ヲ行ッテ、前ニモ述ベタガ如キ他ノ一國ノ治安秩序ト云フモノヲ害スルノ虞ガアル、破壊スルノ虞ガアルト云フヤウナ行爲ヲ爲サシメザルノ義務ヲ負擔シテ居ルノデアリマス、併ナガラ何モ國家ト特殊ノ關係ガナイモノ、純然タル一私人、純然タル私的ノ關係、是等ニ對シマシテハ國家ハ法律ノ規定ニ依ルニアラズンバ、直接ニ之ヲ指揮監督スルノ途ガナイノデアリマス、一私人ハ法律ニ違反セザル限り廣汎ナル言論集會ノ自由ヲ持ッテ居ルモノデアリマス、國家ハ一私人ノ行爲ヲ右ニセヨ、左ニセヨト云フヤウニ指揮監督スル權能ハ持ッテ居リマセヌ、隨テ取締方法モ持ッテ居ナイノデアリマス、若シ其行爲ガ刑事法規ニ違反スルト云フ場合ニハ、國家ハ之ヲ處罰スルノ權能ハ無論持ッテ居リマスケレドモ、刑事法規ニ違反

セザル限り國家ハ之ヲ指揮監督スル途ガナイノデアリマス、此問題ニ關シマスル條約ノ規定ト云フモノハ相務的デアッテ、又對等的ノモノデアリマス、即チ吾々ハ露國ヨリノ赤化宣傳ヲ恐レルト同様ニ露國ニ於キマシテハ、我國ヨリノ白化宣傳ヲ等シク恐レテ居ルノデアリマス、是ハ事實ナノデアリマス、奇體ノヤウニ御考ヘニナリマスケレドモ、實際露西亞カラシテハ日本カラノ白化宣傳ヲ頗ル恐レテ居ル、ソレデ我國ガ一私人ノ行爲ニ對シテ責任ヲ取レヌ以上ハ、露西亞ニ對シテモ一私人ノ行爲ニ對シテ責任ヲ取レト云フコトヲ求ムルコトハ矢張出來ナイノデアリマス、固ヨリ一私人ノ行爲ト致シマシテモ、國家ガ之ヲ使喚シ、又ハ幫助スルト云フヤウナ事ハ勿論條約ノ違反デアリマス、即チ他ノ一國ノ治安秩序ヲ妨害スルヤウナ行爲ヲ一私人ガ爲シマストキニ、國家其モノガ斯クミシロ、助ケテヤル、德義上又ハ物質上ノ援助ヲ與ヘルト云フヤウナ場合ニハ、固ヨリ條約違反デアリマス、是等ニ付テハ固ヨリ取締ラナケレバナラヌト云フコトハ申ス迄モアリマセヌ、併ナガラ國家ト何等ノ特殊ノ關係モナク、又國家ヨリ幫助モシナケレバ使喚モシテ居ラヌト云フヤウナ行爲ニ付キマシテ、國家ハ責任ヲ執レナイ、隨テ斯ウ云フ場合ニハ條約ガ效力ヲ持チマシテモ、此法律案ニ書イテアリマスヤウナ取締ノ

方法ト云フモノハ何レニシテモ必要ナノデアリマス、又先刻述べマシタ國家ト特殊ノ關係ノアルモノ、此モノニ付キマシテハ條約デ以テ互ニ取締ノ義務責任ヲ持ッテ居ル譯デアリマスカラ、若シ此條約ノ規定ガ嚴肅ニ誠實ニ行ハレルモノデアアルナラバ、或ハ別ニ國內法規ヲ以テ取締ヲ設ケルト云フ必要ガナイ筈デアリマス、理論トシテハ必要ガナイ場合ニ於キマシテモ、國家トシテ尙ホ取締ノ法規ヲ設ケルト云フコトハ是ハ當然ノ事デアリマシテ、所謂用心深キ處置デアリマス、是レハ何等差支ノアルベキモノデアリマセヌ、一寸警デ以テ之ヲ申シマスレバ、近頃ノ國際觀念又國際聯盟ノ法規ニ於キマシテモ、侵略的ノ戰爭ト云フモノハ否認致シテ居ル、侵略的戰爭ニ對シテハ相當ノ制裁ノ方法ガ聯盟ノ法規ニ書イテアリマス、然ラバ斯ウ云フ法規ガアルナラバ、外國ヨリノ侵略ハ少シモ恐レル必要ハナイカラ、ソレノ爲ノ兵備ト云フモノハ要ラヌデハナイカ、論理カラ言ッテ見レバサウ云フ結果ニナルダラウト思フ、侵略的戰爭ニ備ヘルベキ兵備ト云フモノハ要ラナイト云フ論理ノ結果ニナルノデアリマセウガ、併シナガラ事實ニ於テ列國共兵備ヲ持ッテ居ルノデアリマス、是ハ所謂用心深キ行爲トシテ、單ニ條約ノ法規ノミナラズ、條約ノ法規ト之ニ加フルニ國內的ノ設

備ト、兩々相俟ッテ目的ノ達成ヲ期シテ居ルト云フノガ、今日ノ國際間ノ實際ノ有様デアリマス、ソレデ先刻述べマシタ特殊ノ關係ヲ國家ト持ッテ居ル團體ニ付キマシテモ、之ニ對スル取締ノ法規ヲ設ケルトハ當然ノ事デアリマシテ、又吾々ハ此條約ガ設ケラレタ以上ハ——條約ガ效力ヲ生ズルヤウニナリマシタ以上ハ、露西亞ニ於テモ此條約ニ對シテハ、精神カラ言ッテモ、法文上カラ言ッテ見テモ、露西亞ハ之ヲ嚴守スルデアラウト吾々ハ信ズルノデアリマスガ、如何ニ條約ノ締結國ガ——當事國ガ條約ヲ格守スルノ誠意ヲ持ッテ居リマシテモ、事情ニ於テハ警察力ノ不備ト云フコトハ往々有リ得ルコトデアリマス、取締ルベキ筈デアアルケレドモ、事實上取締ニ不行届ガアッタト云フヤウナ事ハアリ得ルノデアリマス、殊ニ彼等、斯ノ如キ特殊ノ關係ヲ持ッテ居ル者ガ、自分ノ本國領土ヲ離レ、本國ノ法權ヲ離レテ他國ノ法權内ニ入り、他國ノ領土内ニ旅行スル、滞在スルト云フ場合ニハ、本國ヨリノ取締ノ途ガドウシテモ完全ニイカナイト云フコトハ實際ノ狀況デアリマスカラ、斯ノ如キ國家ノ生存ニ關係ガアルト云フヤウナ重大ナル問題ニ付キマシテハ、條約ノ規定ダケニ委シテ置カナイデ、別ニ國內的施設ヲ設ケルトハ當然ノ事デアルト思フ、是ハ何モ條約ノ遵守格守ト云フコトニ對シテ不信ノ念ヲ示シテ居

ルト云フ譯デハナイノデアリマス、斯ノ如キ事情デアリマスカラ、假令條約ガ效力ヲ生ジ、又兩當事國ニ於テ完全ニ之ヲ履行スルノ誠意ヲ持ッテ居リマシテモ、斯ノ如キ取締ノ法規ヲ國內法ヲ以テ制定スルト云フコトハ實ハ當然ノ話ト考ヘテ居ル、之ガ爲ニ互ニ惡イ感情ヲ持チ、條約ノ不信ヲ示シタモノデアルト言ッテ惡イ感情ヲ持ツト云フ理由ハナイ筈デアリマス、又ナカラウト信ジテ居ルノデアリマス、今ノ御質問ノ中ニ「デノウィエフ」ノ手紙ノコトナドモ御言及ニ相成リマシタガ「ソヴィエツト」政府ハ、條約ハ破棄シテシマツテモ宜イト云フヤウナコトハ決シテ言ッテ居ナイノデアリマス「デノウィエフ」ノ手紙ナルモノハ、是ハ嘘デアアル偽造デアルト云フコトヲ彼等ハ主張シテ居ルノデアリマス、即チ之ガ若シ本物デアアルナラバ、條約違反ト云フ責任アリト云フコトヲ半面ニ認メテ居ルノデアリマス、併シ「デノウィエフ」ノ手紙ガ之ガ果シテ「デノウィエフ」ガ此手紙ヲ出シタコトハ事實デアアルカドウカ、決シテ其事實ハナイノデアアル、何カ寫シヲ英吉利政府デ持ッテ居ラレルト云フコトデアアルガ、ソレハ賈物デアアルト云フコトヲ露西亞ハ主張シテ居ルノデアアル、決シテ「デノウィエフ」ニ於キマシテモ、條約ノ規定ヲ破ッテシマツテ宜シ、斯様ナ事ハ言ッテ居ナイノデアリマス、斯様ナ事情デアリマスカラ、條約ノ存否

ハ勿論デアアルガ、國外宣傳ニ付テモ、各國ニ宣傳ノ網ヲ張ッテ居ル、ソコデ外務大臣ニ御伺ヒシタイノハ、吾々ノ調ベタ所ニ依ルト、國外宣傳ノ委員ノ中デ東邦課ト云フモノヲ設ケ、片山潜氏ガ此主任ヲシテ居ルヤウニ承知シテ居リマス、サウシテ東邦課ノ範圍内ニハ支那、朝鮮、日本、印度「アフガニスタン」土耳古、波斯「アルメニア」沿岸ノ諸邦ト云フヤウニ、區域ヲ定メテ東邦宣傳ニ付テ隙ヲ狙ッテ著々其歩ヲ進メテ居ル、現ニ最近波斯ニ於テ政體ノ變革ヲ實現シタト云フノモ、永イ間ノ過激派ノ宣傳行爲ガ此ニ到ラシメタモノト私ハ信スルノデアリマス、外務大臣ニ於カレマシテハ是等東洋ニ對スル所ノ宣傳計畫ト云フコトニ付テ御認メニナルカ、世上傳フル所ノ種々ナル材料ニ依レバ、是ハ左程デハナイ、所謂反過激派ニ對スル一ツノ宣傳デアアルト云フ說モアリマスガ、斯ウ云フヤウナ實際的ノ計畫ガ、東洋方面ニ向ッテ露西亞過激派ノ手ニ依ッテ策サレテ居ルカト云フコトニ付テ、外務大臣ノ御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○青木委員 更ニ今一點外務大臣ニ御伺ヒ致シタイ、申ス迄モナク露西亞共產黨ハ世界革命ヲ誘起スルコト云フ大戰路ヲ以テ、世界ニ臨ンデ居ル「インタナショナル」ノ首領デアアル所ノ「ブハリー」ガ世界共產黨綱領ノ中ニ述ベテ居ル煽動的ノ文句ノ一二ヲ見テモ、實ニ戰慄スベキモノガアル、例ヘバ「プロレタリア」黨ニハ重要ナル國際的「プログラム」ガアル、ソレハ即チ一般的ニ世界革命ヲ援助シ、革命的「プロバガンダ」ヲ使喚シ、帝國主義諸國ニ起ル「ストライキ」ヤ暴動ヲ助ケ、是等諸國ノ植民地ニ於ケル叛亂ヲ後援スル、是等ガ吾等ノ進ムベク、明ニ示サレテ居ル所ノ道デアアル、「ブルジョア」國家ノ破壞、勞働者ノ獨裁、資本家ノ財產沒收、勞働階級ノ手ニ依ル產業ノ組織、共產主義ノ大道、是レ共產黨ノ「プログラム」デアアル、斯ウ云フヤウナコトガ彼等ノ世界ニ臨ンデ、居ル所ノモノデ是ハ餘程吾々ガ見テハ滑稽ナル誇張的ナ宣言ノヤウニモ見ユルケレドモ、併シ著著彼等ノ計畫シテ居ル所ノ事ハ、ソレニ當符ッテ居ルノデアリマス、國內宣傳

シテモ、サウ云フ行動ヲ取ルカドウカ、疑問ニ思ヒマス、條約ノ規定ニ違反シテ引續イテ赤化宣傳ヲヤルマイト考ヘマスケレドモ、從來サウ云フ風ナ形跡ガアッタコトハ事實デアラウト思フ、彼等ハ赤化ト云フコトヲ惡イ事トハ思ウテ居ナイ、之ガ一番完全ナ組織デアルト思ッテ居ルノデアアル、寧ロ恩惠デモ與ヘテ居ルヤウニ考ヘテ居ルカモ知レヌ、併ナガラ日本ノ見地カラ致シマスレバ、極メテ危險ナ行爲デアアル、ソレハ前ニ申上ゲタヤウニ、條約ノ如何ニ拘ラス、日本ニ於テ餘リ暢氣ナ考ヲ持ッテ居ッテハ危險デアアルカラ、相當取締ヲシナケレバナラスト云フノハソレデアリマス、條約ガ成立致シ、宣傳禁止ノ條項ガ效力ヲ生ジマスレバ、「ソヴィエツト」ノ側ニ於キマシテモ、日本ニ對シテ種々ナル宣傳ヲヤルコトハアルマイト信ジマスケレドモ、用心深キ處置トシテ斯ノ如キ法律ヲ設ケテ取締ヲ講ズルト云フコトハ必要ナ事ト思フ、況ヤ先刻モ述ベマシタヤウニ、條約デ規定スルコトノ出來ヌ部分ガアリマス、即チ一私人ノ行爲、又國家ト直接關係ノ無イヤウナ宣傳行爲ニ付テハ、條約ノ保障ノ範圍外デアアルカラ、是等ノ行爲ニ對シマシテハ、國內法ヲ設ケテ取締ヲ講ジナイト、國家的將來ノ爲メ危險ヲ貽スモノデアルト、私ハ斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、是タケ御答辯申上ゲテ置キマス

○青木委員 大體外務大臣モ私ノ質問

知致シテ居リマス、今回條約ガ出來マ

ノ趣旨ヲ御認メニナッテ居ルモノト諒
解致シマス、ソコデ此共產黨ノ宣傳網
トシテ色々系統的ノ組織ガアルヤウデ
アリマスガ、其組織ノ大要ヲ申上ゲル
ト、先づ第三「ナシヨナル」ノ策源地ト
シテ、共產黨ト申シマスカ、ソレニ又各
國ノ枝葉ガ別レテ居ルノデアリマス、
サウシテ私ノ伺ハントスル所ノモノ
ハ、是ハ政府ノドナタカラデモ宜シイ
ガ、世界ニ向ッテ細胞組織ヲ配置スル
云フコトガ、彼等ノ最重要ナル機關ニナ
テ居ルノデアリマス、非常ニ重要視シテ居
ノデアリマス、即チ露西亞語デ「ヤチエー
カ」ト言フノガ宣傳網トモ言ヒ、或ハ日本
デハ之ニ對シテ細胞ト云フ言葉ヲ使ッ
テ居ルヤウデゴザイマスガ、段々ト大
キナ本部カラ地方ニ及ンデ團體ヲ組織
シテ、サウシテ工場或ハ各町村ニ至ル
マデ、工場ニ於テハ職業同盟ノ形ニ於
テ、多クハ二三十名少キハ五名三名ノ
祕密結社ヲ造ッテ、ソレガ第一線ニ立ッ
テ工場生活ヲシテ居ル、労働者デア
ナラバ、工場内デ宣傳ヲ爲シ、一人デモ
多ク黨員ヲ造ルコトニ始終努メテ居ル
ト同時ニ、資本金ニ對スル種々ナル惡
手段及ビ反抗ノ手段ヲ講ジテ三人五人
ノ祕密結社、即チ結束ヲ以テ工場内ニ
平和ヲ害シ、工場主ニ對スル反抗心ヲ
宣傳スルコトニ努メ、而モ其結社タル
ヤ命懸ケデ互ニ誓ッテ居ル、サウシテ結
社ノ祕密ヲ守ッテ、一人デモ黨員ヲ殖ヤ
スコトニ努メ、稍々感染シ始メタ者ハ、

之ヲ準黨員或ハ黨員候補者ト云フヤウ
ナ待遇ヲシテ、段々赤化シテ行クノデ
アリマス、ソレカラ工場内デアアルナ
バ工場内ニ於テ、彼等ノ必要トスル所
ノ情報ヲ、常ニ上級幹部ニ向ッテ報告ス
ルコトヲ以テ彼等ノ任務トシテ居ル、
サウシテ黨員以外ノ者カラ有益ナル情
報ヲ得タトキニハ、ソレ相當ノ代
金ヲ拂ヒ、即チ買収ヲシテ其情報ヲ蒐
メ、其情報ニ依ッテ策動ヲスルト云フヤ
ウナ組織ニナッテ居リマス、此細胞組織
ト云フモノガ全世界ニ向ッテ非常ナル
勢力ヲ以テ擴ガリツ、アルノデアリマス、
此細胞組織或ハ少數ナル所ノ祕密結社、
大キナ言葉デ言フナラバ——是ハ共產
黨ノ最下級ノ團體デアアルケレドモ、之
ガ第一線ニ立ッテ居ル所ノ恐ルベキ團
體デアアルト思フノデアリマスガ、此細
胞組織ト云フモノガ日本ノ内地ニ於テ
現ニ在ルヤ否ヤ、過去ニ在ッテ或ハ現在
ハ絶エタカ、或ハ此朝鮮等ニ於テハド
ウ云フ工合ニナッテ居ルカ、私ハ事實ヲ
伺フノダカラシテ、詳シク説明スル必
要ハアリマセヌガ、此細胞組織ト云フ
モノガ懸テハ各方面ニ潜在シテ居ッテ、
サウシテ一舉ニ事ヲ舉ゲルト云フノ
ガ、兎ニモ角ニモ一般的ニ此「インター
ナシヨナル」ノ作戰ノ重要ナル一ツノ
部署トナッテ居ルノデゴザイマスルカ
ラシテ、此點ニ付テ内務省ノ方カラデ
モ宜シウゴザイマスガ、我國ノ内地及
朝鮮ノ内部ニ於テ、如何ナル狀況ニナッ

テ居リマスルカ、無ケレバ幸ヒデアリ
マスガ、有リトスルナラバ發表出來ル
ダケノ程度ニ於テ御説明ヲ願ヒタイト
思ヒマス
○川崎政府委員 只今ノ青木君ノ御尋
ハ、大體露西亞ノ宣傳法デアリマスガ、
今御話ノヤウナ風ニ於テヤルト云フコ
トハ當局モ認メテ居ルノデゴザイマス、
此事ハ何レ機會ヲ得マシテ申上ゲル機
會ガアルダラウト思ヒマスガ、先般ノ
檢舉サレマシタ日本共產黨、之ガ即チ
只今御話ノヤウナ風ニ依ッテヤッテ居
ノデアリマシテ、是等ノ關係ノ細胞ハ
殆ドモウ既ニ檢舉シタ積リデアリマス、
他ニモ或ハアリハセヌカト今思ッテ居
ルコトモアリマスガ、大體檢舉シテシ
マッテ居リマス、朝鮮ノ方ノ事ハ能ク私
ハ存ジマセヌガ、又サウ云フコトノア
ルコトヲ聞キマセヌカラ、無いノダラ
ウト思ヒマスケレドモ、唯朝鮮ニ於テ
不逞鮮人ナドニ付テ、ドウ云フ事ガア
ルカ能ク私ハ承知シマセヌガ、内地ニ
於キマシテノコトハ今日マデ大體檢舉
致シテ居ル積リデアリマス、併シ是ハ
御話ノ通りニ祕密ノ結社デアリマシテ、
マダ他ニモアリハセヌカト多少疑惧ノ
念ヲ持ッテ居ルコトモアルノデゴザイ
マス、是ハ何レ改メテ又詳シク御話ス
ル機會ガアルダラウト思ヒマス
○青木委員 朝鮮ノ下岡政府委員ガ御
見エニナリマシタカラ、只今ノ質問ニ
關聯致シマシテ、朝鮮ニ付テ質問致シ

タイト思ヒマス、此共產黨ガ朝鮮ヲ目
掛ケテ居ル所ノコトハ非常ナモノデ
アッテ、先づ日本ヲ攪亂セントスルナ
ラバ、朝鮮ヲ攪亂セザルベカラズ、彼等ハ
此朝鮮ヲ——朝鮮ト云フ言葉ハ使ハヌ
ケレドモ、半植民地ト云フ言葉ヲ使ッテ、
朝鮮ヲ目標ニ策動シテ居ルノデアリマ
ス、其朝鮮ノ事ニ付キマシテハ昨年「イ
ルクーツク」ニ東洋民族共產會議ト云
フモノヲ開イテ、露國ノ共產黨カラ「バ
ルコフ」ト云フ者ガ來テ、議長席ニ著イ
テ、支那、朝鮮、日本カラモ名前ハ判ッテ
居リマスルガ、是ハ間違ヒデアアルカドウ
カ知リマセヌカラ申上ゲマセヌガ、日
本カラモ三人バカリ出席シテ、サウシ
テ種々此鮮人問題、朝鮮問題ニ付テ議
シタト云フコトガ、新聞等ニ依ッテ傳
ハッテ居ルノデアリマス、其時ニ時ノ議
長デアタル所ノ「バルコフ」ト云フ領
袖ハ、朝鮮ニ付テ斯ウ云フ組織ヲ發表
シテ居ルノデアリマス、朝鮮ニハ第一
労働部ト云フモノヲ置イテ、サウシテ
労働者階級ニ於ケル所ノ黨員ノ増加ヲ
圖ル、第二、出版部ヲ置イテ反帝國の即
チ過激主義的ノ出版物ヲ發行頒布シテ
以テ宣傳ヲスル、第三ガ煽動、即チ此朝
鮮ノ社會黨中、米國ノ宣教師ト策應シテ
大ニ煽動スル、第四、露人部、朝鮮内ノ
露人ト國境外西伯利ノ露人トノ連絡ヲ
圖ル、軍事部ト云フモノヲ置イテ、サ
ウシテ實際運動ヲスル、斯ウ云フ計畫
ヲ發表シテ居ルノデアリマスルガ、之

ガ果シテ事實デアルカ、或ハ唯宣傳デア
アルカ、私ハソレ程ノ確信ヲ持チマセ
ヌガ、兎ニモ角ニモ此朝鮮人ガ不逞鮮
人ト云ヒマス、ドウカ知リマセヌガ、
西伯利ニ入込デ居ル所ノ數ハ莫大ナ
モノデアッテ、サウシテ此無智ナル所ノ
朝鮮人ガ時代主義デ以テ今日ノ過激派
ト策應シ、否過激派ノ中ニ這入ッテ同ジ
赤イ色ヲ以テ働イテ居ル所ノコトハ、
是ハ有名ナル所ノ顯著ナル事實デアリ
マス、サウシテ彼ノ國境ヲ相對シテ居
ルノデゴザイマスカラ、朝鮮内部ニ於
テハ其他ノ種々ナル事情カラ察シテ
モ、此過激派ノ宣傳及秘密結社等ガ相
當ニ行ハレ得ルト認メ得ル理由ガアル
ト私ハ思フノデゴザイマス、此點ニ付
テ私ハ具體的ニ朝鮮内部ニ何ウ斯ウト
云フ指摘スベキ材料ヲ持チマセヌガ、
此點ニ付テ下岡政務總監ヨリシテ御説
明ヲ仰グコトヲ得レバ甚ダ幸ト思ヒマ
ス

○下岡政府委員 只今青木委員ヨリノ
朝鮮ニ於ケル過激主義ノ宣傳ノ模様等
ニ付テノ御尋ガゴザイマシタガ、御説
ノ通り接壤地デゴザイマシテ、從來カラ
其點ニ付テハ非常ナ心配ナ事ガアリ、
又當局者トシテハ最モ警戒ヲ要セナク
テハナラヌヤウナ事ガ屢々アッタノデゴ
ザイマス、何シロ滿洲ハ勿論西伯利方
面ニ於テ朝鮮人ガ少クトモ百五十萬位
ハ居ラウト言ハレテ居ルノデアリマ
ス、西伯利ノ奥地方面ニ於テハ餘程澤

山居リマシテ、種々ノ聯絡ヲ取り、種々
ノ團結ヲシテ、動モスレバ朝鮮ノ内政
ヲ攪亂シテヤラウト云フヤウナ計畫ヲ
立テ、居ルノデアリマシテ、之ニ對ス
ル豫防ト云フコトハ餘程注意ヲ要スル
コトデアラウト思ヒマス、從來此國境
外ニ於ケルモノニ關シマシテハ、種々
ノ方法ヲ以テ其事情ヲ探究シテ、之ニ
對スル豫防ノ途ヲ講ジテ居ッタノデア
リマスガ、幸ニ朝鮮ノ内部ノ方ニハ餘
リ深クハ喰入テ居ラヌノデアリマス、
併ナガラ秘密結社デ色々ノ聯絡ヲ取ル
コトデアアルカラ、却々容易ニ分ラヌノ
デゴザイマスカラ、當局者ノマダ承知
シテ居ラヌ事柄デドウ云フ所マデ喰
入テ居ルカ分ラヌコトガゴザイマスケ
レドモ、是ト云フ程外面ニ現レル大ナ
ル組織的計畫ガ出來テ居ラヌノハ、朝
鮮統治ノ上ニ甚ダ幸福ナコト、思フノ
デアリマス、此度國交ガ恢復シテ露西
亞人ト朝鮮人トノ間ノ交通モ一層便利
ニナリ、頻繁ナル兩國ノ間ノ交通ガ
出來ルコトニナリマスルト、此亦化
宣傳ト云フコトニ付テハ、非常ナ苦心
ヲ要スルコトデアリマス、當局トシテ
ハ之ニ對スル各種ノ準備ヲ今シツ、ア
リマシテ、場合ニ依レバ更ニ之ガ豫防
ニ關スル費用ノ要求モ致サナケレバナ
ラヌト思ヒマスガ、併ナガラ大體カラ
考ヘテ見マシテ、非常ニ是ハ恐ロシキ
モノデアッテ、之ガ爲ニ朝鮮ノ内政ニ根
本カラ攪亂ヲセラル、ト云フコトノ心

配ハナイノデアラウト思ヒマス、又サ
ウアラスベカラザルコトデアリマスル
カラ當局者トシテハ、責任ヲ以テ之ニ
關スル防禦ヲスル考ヲ持ッテ居リマス、
序ニ申上ゲマスガ、此治安維持法ノヤ
ウナ法律ハ、朝鮮ニ於テモ是非必要ナ
モノデアルト考ヘテ居リマス、若シ之
ガ制定セラレルト云フ場合ニ於テハ、
必ズ之ヲ朝鮮ニモ施行シテ貫ヒタイ希
望ヲ持ッテ居リマス、現在ニ於テモ一
制令ガアリマシテ、政治ヲ變革スル目
的ヲ以テ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ妨害セ
ムトシタル者ハ云々、之ヲ煽動スル者
云々ト云フヤウナコトガアリマシテ、
其制令ニ一ノ制裁ノ規定ハアリマスケ
レドモ、ソレデハ少シ範圍ガ狭ク、過激
派共產主義ノ宣傳ノ如キハソレニ包含
シ難イモノデアアル、又他ノ意味ニ於テ
モ政體國體ヲ云々スルヤウナ事柄ハ、
今ノ制令ノ條項ニハ當筈マラナイ、隨
テ其範圍ガ狭イノデアリマスカラ、若
シ此法律ガ出來ルト云フコトデアアル
ナラバ、朝鮮ニモ是非施行シテ貫ヒタイ
ト云フ考ヲ持ッテ居リマス、序ナガラ政
府ノ意ノ在ル所ヲ表明シテ置キマス

○青木委員 今一二點政府委員ノ方ニ
御伺ヲ致シタイノデアリマス、ソレハ
時々露西亞ノ共產黨ノ發表スル色々ノ
發表物ノ中ニハ、日本ト云フコトガ常
ニ這入ッテ居ッテ、吾々ノ神經ヲ甚ダ尖
ラスノデアリマスガ、昨年ノ共產黨第
十三回大會デモ、共產黨「インターナシ

ヨナル」ノ勞働代表者「ブハーリン」ガ
演説ヲシテ居リマス、其中ニ日本ノ農
民組合ニ關係シタコトガアリマスカラ
念ノ爲ニ御伺致シテ置キタイト思ヒマ
ス、茲ニ喜ブベキ現象ハ獨逸「チエック
ス」ガ「ロウキア」、伊太利、日本、波蘭等ノ農
民組合ガ共產黨ヲ支持シ居レルコトナ
リ、是等各國ニ於ケル農民運動ハ露西
亞共產黨ノ影響ヲ受ケ益々盛ンニナリ
ツツアリ、今ヤ此共產主義ノ農民運動
ヲ爲シツ、アル團體員ノ總數ハ百萬以
上ナリ、斯ウ云フヤウナコトヲ言ッテ居
ルノデアリマス、私ハ日本ノ農民運動
ト云フモノガ、露西亞ノ共產黨ト脈絡
ガアルト云フヤウナコトハ信ジマセヌ
ガ、彼等ハ日本内地ニ於テ何カ社會運
動ガアルト、直ニ露西亞共產黨ト脈絡
ガアルガ如キ宣傳ヲ世界ニ向ッテ爲シ
テ居ルノデアリマス、此點ニ付テ日本
ノ農民組合及農民運動ト共產黨ト萬一
ニ脈絡ガアルヤウナコトガアルナラバ
其ダ憂慮ニ堪ヘナイノデアリマス、政
府當局デハ之ヲ如何ニ御考ニナッテ居
リマスカ伺ヒマス

○川崎政府委員 日本ノ社會運動、各
種農民運動、其他各種ノ運動、是等ノ
運動ノ一部ニサウ云フ傾向ガアルカ
ドウカト云フヤウナ點ニ付テモ、亦他
日機會ヲ得テ詳シク申上ゲタイト思
ヒマスガ、ソレ等各各種ノ運動ノ中ニハ
方向轉換ト唱ヘマシテ、サウ云フ主義
ノ人ガ入込デ、其運動ヲ助成スルト

共ニ、其目的ヲ達シヤウト云フヤウナ
コトガ、農民運動ニ於テモ多少アリハ
セスカト、思ッテ居リマス、ソレハ何レ詳
シク申上ゲマス

○青木委員 尙色ミ細カイコトデ伺ヒ
タイコトモアリマスガ、ソレモ保留シ
テ後ニ伺フコトニ致シマス

○前田委員長 サウシマスト今日ハ此
程度デ閉會致シマシテ、明日ハ休ミ、明
後日ノ午前十時カラ開會致シマス、サ
ウシテ若シ内務大臣ノ病氣ガ快クナッ
テ登院セラレマシタラ、川崎政府委員
カラ御交渉ヲ願ッテ内務大臣ニ出テ戴
クヤウニシタイト思ヒマス

午前十一時五十五分散會